

施策評価シート

幹事部局

教育庁

施策の名称	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用
施策の目的	全国に誇る島根固有の歴史・文化についての保存・継承と、調査研究を進め、その魅力を県内外に積極的に発信し、歴史・文化を通じた人々の交流を促します。
施策の現状 に対する評価	<p>①(歴史文化遺産の保存・継承)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村や所有者が実施する文化財の保存修理、耐震化等を計画的に支援しているが、今後も、大規模な修理を要する重要文化財建造物等が数多く残っている。 <p>②(歴史文化遺産の研究と情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座・シンポジウムは、会場とオンラインを併用したことで、コロナ禍前を上回る参加者・視聴者数を獲得している。 古代文化センターのホームページをリニューアルし、研究員による日記、コラムや短編動画など、歴史文化を親しみやすく伝える工夫をした結果、アクセス数が大幅に増加している。 他県との共同研究の成果をもとに大阪歴史博物館で展覧会を開催するなど、歴史文化の情報発信を広く行ったことで、文化財への理解が深まった。 <p>③(歴史文化遺産の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館や学校等での出前講座等の実施、古代出雲歴史博物館等での修学旅行の受入等を行い、学校教育・社会教育における歴史・文化への理解促進を図っている。 県内7つの日本遺産については、認定順に、毎年継続審査を迎えるため、認定地域が実施する観光振興や地域振興の取組に対するフォローアップが課題である。 世界遺産石見銀山については、世界遺産センターでの企画展開催や、「中世山城」をテーマとする講演会と周遊企画を連動させて実施するなど、認知度向上と来訪者の増加に努めた。 <p>④(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 島根県文化財保存活用大綱で掲げる文化財の保存、継承、活用に地域総がかりで取り組むための方向性について、市町村への周知を図るとともに、市町村による「文化財保存活用地域計画」の作成に向けた取組みへの支援を進めている。
今後の取組 の方向性	<p>①(歴史文化遺産の保存・継承)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財の調査研究を進め、今後も国・県指定等による保護を図る。 文化財の保存状態や防火防災設備の設置状況等について市町村や所有者と情報共有し、中長期的な観点から計画的に修理等が行われるよう支援する。 <p>②(歴史文化遺産の研究と情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> 島根への興味・関心や来訪意欲の向上を目指し、オンラインを併用した講座・シンポジウムの開催や、ポータルサイトの活用などにより、情報発信する。また、講座受講者等のアンケート結果を活用し、興味関心の高いテーマを探り、新たな研究課題や研究成果の活用について検討を行う。 来年度以降の、奈良県など他県との共同研究など、連携のあり方や方向性を検討する。 <p>③(歴史文化遺産の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育・社会教育を通じて、地域資源として文化財の活用が進むよう、引き続き公民館等への出前講座や、博物館の学校利用等に取り組む。また、古代出雲歴史博物館等の県有施設ではコロナ禍の影響により県内外の修学旅行等の学校利用が急増しており、今後の定着化を図っていく。 日本遺産については、認定地域間で各地の観光振興、地域振興の好事例を共有するとともに、効果的な情報発信等を行う。 世界遺産登録15周年となる令和4年度は、企画展を開催するとともに、令和9年度の発見500年・登録20周年に向けて、大田市や地元関係団体等と連携し、認知度向上、来訪者の増加を図る。

事務事業の一覧

施策の名称		VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	指定文化財等保護事務	県民、文化財所有者・保持団体	県民が郷土への愛着や誇りを持てるよう、文化財を将来にわたって確実に継承し、活用できるように地域総がかりで取り組む環境を整備する。	3,607	4,345	文化財課
2	歴史遺産保存整備事業	県民、文化財所有者・保持団体	文化財の損壊や滅失を防ぎ、将来へ確実に継承していく	125,774	132,305	文化財課
3	八雲立つ風土記の丘事業	県民及び県外からの利用者	風土記の丘地内の史跡や文化財を通して県内の文化財への興味・関心を高め、文化財を身近なものと感じるようにする。	65,398	66,436	文化財課
4	古墳の丘古曾志公園事業	県民及び県外からの利用者	古代の文化遺産の保存と活用を図り、県民の古代文化についての理解と認識を深める。	7,303	34,971	文化財課
5	古代出雲歴史博物館管理運営事業	古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々	島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を発信し、理解してもらう。	387,885	484,512	文化財課
6	埋蔵文化財保護事務	県民及び開発事業者	開発に際し貴重な文化財が破壊あるいは消失しないよう、計画段階で必要な協議を行い、適切な対応が取られるようにする	2,463	2,557	文化財課
7	文化財活用事業	県民	子供から高齢者まで幅広い世代に島根の歴史文化を学習する機会を積極的に提供し、ふるさとを誇りに思う心を醸成することで、県民の心の豊かさの向上に寄与する。	3,379	3,623	文化財課
8	埋蔵文化財調査センター事業	県民・公共事業者	開発事業地内の埋蔵文化財調査を行いその価値を明らかにし、調査で得た情報を県民に還元すると同時に、開発事業と文化財保護との調整を円滑に行い、適正な公共事業の促進を図る。	408,895	525,032	文化財課
9	古代文化の郷「出雲」整備事業	県内外の人々	八雲立つ風土記の丘地内の史跡等の魅力向上を図るとともに、出雲部に存在する多様な文化遺産をネットワーク化し、歴史探訪ルートを設定して、野外博物館として活用してもらう	13,179	22,964	文化財課
10	未来に引き継ぐ石見銀山保全事業	県内外の人々	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、適切に保存整備し未来に継承しつつ、その価値や魅力について情報を発信し認知度の向上を図る。	64,728	83,364	文化財課
11	古代文化研究事業	県内外の人々	しまねの特色ある歴史文化について、新たな視点から調査研究を行い、学術的基盤を構築する。研究成果を広く公開して、歴史・文化の魅力を向上させることを通じ人々の交流を促す。	34,327	45,367	文化財課
12	島根の歴史文化活用推進事業	県内外の人々	しまねの豊かな歴史文化の魅力を広く伝え、県民の郷土への自信を培う。県外の方々には、しまねの歴史文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。	21,968	43,488	文化財課
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課 文化財課

事務事業の名称		指定文化財等保護事務			
目的	誰(何)を対象として	県民、文化財所有者・保持団体	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県民が郷土への愛着や誇りを持てるよう、文化財を将来にわたって確実に継承し、活用できるように地域総がかりで取り組む環境を整備する。		3,607	4,345
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県文化財保護審議会の開催 ・文化財保護法や島根県文化財保護条例等に基づく文化財の指定事務 ・文化財愛護意識醸成のための普及啓発事業 ・博物館法に基づく博物館の登録事務、銃砲刀剣類取締法に基づく銃砲刀剣類登録事務 ・島根県文化財保存活用大綱に基づく文化財の保存・継承・活用の推進 ・文化財保存活用地域計画作成に向けた市町村への支援 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村担当者会等で市町村、民俗文化財の保持団体等へ文化財の財政支援制度について周知し、活用促進へ繋げる。 ・市町村担当者会等で所有者等の維持管理費軽減のため、博物館への寄託や収蔵庫整備補助について説明し、支援を行う。 ・県、市町村、関係団体と「島根県文化財防災ネットワーク」を設立し、地域間連携による文化財防災体制を整え災害に備える。 				
1	上位の施策	VI-4-1(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	国・県指定文化財の指定件数【当該年度4月～3月】	目標値		4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	件	単年度値
		実績値	4.0	0.0	5.0					
		達成率	—	—	125.0	—	—	—		
2	KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実	目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
指定 国:史跡久喜銀山遺跡、重要文化財(建造物)美保関灯台、出雲日御碕灯台 県:無形民俗文化財唐川神楽、有形文化財(建造物)金森家住宅(国・県指定計5件) 追加指定 国:史跡上塩冶地蔵山古墳、田和山・神後田遺跡 登録 国:旧島根県立博物館新館、島根県民会館、島根県立図書館、島根県立武道館、旧濱中屋船宿、三代家住宅主屋 ふるさと文化財の森設定 隠岐の島町茅場 文化財保存活用地域計画認定 出雲市、津和野町、松江市										

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県文化財保護審議会委員や各分野の専門家と連携し、文化財の調査研究を進め、文化財指定等が着実に進んだ。 ・無形民俗文化財の衣装・用具修理の財政支援制度を周知し、令和2年度の文化庁補助1件(3団体)、民間助成17件(17団体)が、令和3年度にそれぞれ2件(10団体)、26件(26団体)に増加した。 ・保存環境の整った博物館・美術館への文化財の寄託を呼びかけ、文化財1件が博物館に寄託される予定である。 ・令和3年3月に策定した島根県文化財保存活用大綱を勘案して令和3年度に3市町の文化財保存活用計画が認定され(計4市町認定済)、新たに3市町が作成中で、その支援を行っている。 ・島根県文化財防災ネットワークを設立するとともに文化財所有者向けマニュアルを作成し、防災面からも文化財保護を進めた。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・神楽等の無形民俗文化財の保持団体等は、練習や発表の機会が減っており、その継承が困難な状況にある。 ・市町村によっては、文化財の調査研究、保存・継承、活用が難しい状況にある。 ・設立した島根県文化財防災ネットワークによる地域防災体制の強化および連携の促進を図る必要がある。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の予防や拡大防止のため、無形民俗文化財の保持団体等の練習機会が減少し、発表の場となるイベント等も多く中止となった。 ・市町村のなかには、文化財専門職員の不在や職員の専門性の偏りのために十分な文化財の保存管理が行えなかったり、文化財保管施設が不足していたりする問題が生じている。 ・近年、県内で自然災害による文化財への甚大被害が発生している。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村や無形民俗文化財の保持団体等に対し、文化庁が新たに開設した、伝統行事等の公開支援(映像制作・オンライン)による情報発信(会場への入場管理など)の相談窓口について周知し、公開事業の促進へつなげる。 ・文化財所有者や市町村だけでなく、地域社会総がかりで文化財の保存・活用を図るために有用な文化財保存活用地域計画を未作成の市町村に対し、作成のメリット(文化財修理等の国庫補助率が上乗せされる等)を周知するとともに、市町村が文化財保存活用地域計画を作成する場合は、県も計画段階から参画し、島根県文化財保存活用大綱の方向性に照らしたものとなるよう助言、支援する。 ・島根県文化財防災ネットワーク関係者を対象とした研修(講師に文化財防災センター職員を予定)を開催し、文化財防災に関する知識・技術の習得を支援する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		歴史遺産保存整備事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、文化財所有者・保持団体	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	文化財の損壊や滅失を防ぎ、将来へ確実に継承していく		125,774	132,305
			うち一般財源 (千円)	116,526	111,952
令和4年度の取組内容	国及び県指定の文化財のうち、経年劣化や自然災害等により保存が危ぶまれるものや、技術等の伝承が危ぶまれるものについて、その修理や伝承等に要する経費の一部を助成する。				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・市町村と情報共有を図り、概ね5年後までの事業見込を把握の上、計画的に事業実施できるよう調整を行う。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	歴史遺産保存整備の補助要望に対する採択割合【当該年度4月～3月】	目標値		87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	%	単年度値
		実績値	86.3	95.2	86.9					
		達成率	—	109.5	99.9	—	—	—		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		前年度6月の補助要望件数に対する採択件数が占める割合 R01年度事業分 19件/22件(86.3%) R02年度事業分 20件/21件(95.2%) R03年度事業分 20件/23件(86.9%) ほかに6月以降の補助要望件数に対する採択数 4件/4件 ほかに6月以降の補助要望件数に対する採択数 6件/6件								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 指定文化財の保存修理について、計画的に整備を進めている状況 保存修理したことにより、未来への継承が可能となった。修理後は一般向けに公開するなど、地域資源として活用されている。(令和3年度で完了した事業)重文 樋口威鑑残闕修理、重無民 佐陀神能舞殿修理、県指定 広瀬絢映像作成など(継続して実施している事業)重文 旧大社駅本屋保存修理、重有 菅谷たたら山内保存修理、県指定 永明寺保存修理など(令和4年度から開始する事業)国宝 神魂神社防災施設整備、重文 旧道面家住宅保存修理、県指定 雁皮紙用具修理など
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 指定文化財の個人所有者が保存修理や維持管理等を行う場合、多額の自己負担が生じる。 「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」により防災施設整備事業が集中している。 昨年度発生した災害により文化財の災害復旧事業が集中している(令和3年7月及び8月の大雨、台風による被害の災害復旧事業)。 近年中に保存修理を要する文化財(建造物)が多数ある。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の保存修理はその性質上、材料や工法が特殊なため、一般的な修理と比較して費用が嵩む。 経年劣化による建造物の修理等に加え、防火・防災設備の更新時期を迎えるもの、建造物の耐震化工事を要するもの、安全性確保のため史跡の石垣修理を要するもの等がある。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の傷みが進行すると保存修理費用が増大することを鑑み、市町村の協力のもと、随時所有者と関係機関で保存状態を情報共有し、適時に文化庁の専門職員の調査派遣を要請するなど、計画的に修理が行われるよう支援する。 災害復旧事業を実施し、文化財の適切な復旧および防災対策の強化を進める。 実施事業の進捗管理を市町村とともにし、事業内容や事業費について適切な計画変更が行われるよう支援する。 事業計画について、市町村および所有者と綿密な協議を行い、概ね5年後までの中長期的な事業計画を把握した上で、適切な事業実施ができるよう支援する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		八雲立つ風土記の丘事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県外からの利用者	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	風土記の丘地内の史跡や文化財を通して県内の文化財への興味・関心を高め、文化財を身近なものと感じるようにする。		65,398	66,436
			うち一般財源 (千円)	64,442	64,805
令和4年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、SNS等を活用した情報発信、史跡音声ガイド端末や電動アシスト自転車による利用促進を図る。 ・近隣学校及び公民館の行事受け入れ、大・小さまざまなイベントの開催、魅力的な展覧会を開催する。 ・展示内容の充実、複数ある施設の維持・管理・運営を確実に行う。 ・郷土の歴史を深く学ぶため、年に12回講師を呼び講演会を開催するなどの普及事業を行う。 ・令和4年9月に開所50周年を迎えるにあたり記念式典及び記念事業を行う。 			
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> ・普展展示しないものを公開する「収蔵品展」の実施や「遺跡カード」といった展示物以外のコンテンツの充実 ・松江市文化財部局、観光部局、風土記の丘周辺施設との連携強化 			
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	八雲立つ風土記の丘展示学習館、山代二子塚土層見学施設、ガイダンス山代の郷の入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		24,000.0	24,000.0	24,000.0	24,000.0	24,000.0	人	単年度値
		実績値	23,811.0	14,539.0	16,058.0					
		達成率	—	60.6	67.0	—	—	—		
2		目標値								%
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数推計①県内(R元年度9,286人、R2年度9,014人、R3年度8,511人)、県外(R元年度14,525人、R2年度5,525人、R3年度7,547人) ②初めての来場(R1 65%、R2 55%、R3 51%)、2～4回(R1 23%、R2 25%、R3 32%)、5回以上(R1 12%、R2 20%、R3 17%) ・企画展開催数(展示学習館(企画展4回、ミニ企画展2回)、ガイダンス山代の郷(ロビー展3回))、体験学習(142人※こどもまつり、遺跡カードを除く)、風土記の丘教室(345人)、こどもまつり(670人)、月の宴(950人)、遺跡カード(182人)などを実施、Facebook(フォロワー数1,629 前年度比+14.3%)、Youtube(総再生回数6,557回(R4.6.9時点)) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響はあったが、感染症対策を徹底した上で、イベントの規模の縮小、日程の調整により、可能な限り実施に努め、令和3年度の入館者数は前年度より1割増加した。 ・風土記の丘地内の史跡(出雲国分寺跡等)と一緒に撮った写真を提示すると「遺跡カード」がもらえる、史跡周遊イベントを新たに実施したところ、親子連れを中心に182名の参加があった。
課題分析	① 課題	・令和元年度と比較して、特に減少が著しい県外からの入館者数の回復が課題。
	② 原因	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため不要不急の国内移動に対する自粛要請があった。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・風土記の丘で開催した講座の動画配信や、SNSでの各種イベント等の情報発信を引き続き行い、風土記の丘の史跡や文化財への関心を高め、コロナ収束後の県内外からの来館につなぐ。 ・幅広い世代に古代や風土記の丘に親しんでもらうことを目的に開催する「こどもまつり」の内容を工夫し、より多くの子どもたちや保護者の参加を促すとともに、風土記の丘の周知を図る。 ・開所50周年記念の関連事業として、特別展を開催し入館者の増加を図るとともに、松江市の博物館と連携事業を実施し相乗効果を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古墳の丘古曾志公園事業				
目的	誰(何)を対象として	県民及び県外からの利用者	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額	
	どういう状態を目指すのか	古代の文化遺産の保存と活用を図り、県民の古代文化についての理解と認識を深める。		7,303	34,971	
			うち一般財源 (千円)	6,777	6,852	
令和4年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全確保のために、施設の適切な維持管理を行う。 ・費用対効果や長寿命化の観点から、良好な利用環境確保のため、設備の修繕に努め、事故を誘発するおそれのある設備、不要な投資を招く可能性のある設備の撤去についても検討する。 ・地元公民館や埋蔵文化財調査センター等の協力を得て、各種イベントの開催や学校等への広報活動を積極的に行い、施設(史跡)への理解を深める。 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> ・野外ステージの利用環境を改善するため、観客席の老朽箇所を補修 ・令和3年7月及び8月の大雨により被害を受けた園内の安全を確保するため、被災箇所の原状復旧を実施 				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	古墳の丘古曾志公園事故発生件数【当該年度4月～3月】	目標値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度 値
		実績値	0.0	0.0	0.0					
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減のため、教育機能を持った公園としての位置付けを平成19年度から変更して一般の公園として開放している。 ・指定管理者により園内は良好な環境に保たれているが、建築物・構造物・備品共に老朽化が進行している。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・野外ステージのベンチ木部再塗装・床タイル補修を実施し、良好な利用環境の確保に努めた。 ・大雨による法面の亀裂発生箇所及び崩落箇所の原状復旧工事に着手した状況。 ・埋蔵文化財調査センターと連携して「古曾志公園の紹介しまね遺跡ガイド」を実施した。また、周辺自治会、小・中学校への広報活動により、利用促進を図った。 	
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	・建築物や構造物の発錆劣化や機器の故障等、全般的に老朽化が進行
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> ・開園後30余年を経過 ・経費的な問題で抜本的な修繕が困難
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な園内の見回りや施設の保守点検により、利用者の安全確保を図る ・老朽化した個別施設、機器ごとに、安全性や費用対効果をふまえ今後の対応を検討

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	文化財課
-----	------

事務事業の名称		古代出雲歴史博物館管理運営事業			
目的	誰(何)を対象として	古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を発信し、理解してもらう。		387,885	484,512
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は、(夏)ハニワ展、(秋)出雲と吉備、(春)出雲神楽の3つの展覧会を通して、埴輪の意味やその地域差、出雲と吉備との交流・関係性、出雲神楽の歴史の変遷や役割など、これまでの研究成果を紹介展示する。 常設展示では、保存と展示を可能とする特別な展示ケースを整備し未公開収蔵品等の公開を行う。また、芸能衣装・神楽面等展示の充実を図る。神話シアターでは、映像コンテンツ(1本)のリメイクを行い魅力アップを図る。 交流普及事業として、企画展・特別展時における講演会・講座や出前講座・講師派遣、歴博夏祭りなど各種イベント等を実施する。 来館者アンケートを利用しやすく快適な施設運営と効果的な広報に活用する。 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 県内小中高等学校利用の促進を図るため、校長会や学校関係者、県内エージェントに直接働きかける。また県外においても、教育旅行を企画するエージェントを訪問し修学旅行の誘致活動を行い、学校利用の新規開拓及び定着化を図る。 ホームページ充実とスマホ対応化、講演会のLive配信など利便性向上、その他効果的な情報発信により来館者増を図る。 				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	古代出雲歴史博物館入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		240,000.0	180,000.0	200,000.0	240,000.0	240,000.0	人	単年度値
		実績値	170,798.0	94,842.0	103,977.0					
		達成率	—	39.6	57.8	—	—	—		
2		目標値								%
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの影響を受けていない平成30年度の入館者数は、約24万人であった。令和元年度は、施設のメンテナンス事業のため、令和元年11月18日～令和2年4月23日まで休館したため、入館者数が約17万人に減少した。令和2年度～令和3年度にかけては、新型コロナの影響により来館者が減少した。特に、令和2年4月24日～5月18日の緊急事態宣言による休館と令和4年1月27日～2月20日のまん延防止重点措置による長期休館もあり、この2か年度は、入館者数が平成30年度の約4割に減少した。 一方で小中高など学校団体は、修学旅行や遠足等での利用が増加しており、令和3年度は266校、14,896名の利用があった。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> Instagramの運用を開始し、フェイスブックと合わせSNSでの広報・宣伝活動を充実させた。(計約5500名の方が評価) 修学旅行・遠足の増加が見込まれるため、引き続き校長会等へのPRや、中・四国地方の主要な旅行会社にポスター・チラシ・優待券を配布する等営業活動を強化した。令和3年度は、令和2年度(177校、9890名)の約1.5倍(266校、14,896名)の学校利用があった。 展覧会ごとに開催する講演会のLive中継配信を開始し4回実施した。 ホテルなど宿泊施設や道の駅など交通拠点に優待割引券等配布し、誘客促進を図った。 出雲市観光協会と連携しアニメツーリズム企画に参加。デジタルスタンプラリー等の取組で新たな客層の獲得に努めた。(アプリインストール数681件) 観光庁の多言語解説整備支援事業により歴博の概要看板(英語翻訳)の作成やHPの主要展示の解説(英語翻訳)を行った。 来館者数がコロナ前の平成30年度と比べると約4割に大幅減少。特に県外からの個人旅行者や募集型団体旅行者の減少が大きい。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 個人 H30年度 約22万人 → R3年度 約9万人(-60%) 団体旅行(学校除く) H30年度 約2万人 → R3年度 約2千人(-89%) また、コロナによる渡航制限により外国人観光客も減少
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大に伴い、国、各都道府県による旅行等不要不急の国内移動に対する自粛要請があった。また、国民も旅行を自粛する意識が強かった。更に当館もまん延防止重点措置による休館を行ったため来館者数が減少した。 コロナの影響を受け、大人数が集団で移動するバス利用の団体旅行が減少した。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 今後、観光旅行は個人旅行やマイカー移動へのシフトが予想されるため、InstagramやフェイスブックなどSNSを使い大社に訪れる個人やグループなどに対し、引き続き情報発信を行う。また、マイカー客を想定し引き続き、道の駅等交通拠点にポスター・チラシ・優待券の配備を働きかけるとともに、新たに中国地方管内の山陽自動車道・中国自動車道の主要なSA・PAへも働きかけPRの強化を図る。 コロナの影響で一時的に県外からの修学旅行が増加している状況を踏まえ、コロナ後に少しでも定着するよう県外の学校や旅行会社等に向けてセールス範囲の拡大(FDAの就航先の旅行会社など)や情報発信を強化する。 引き続き近郊の宿泊施設や観光施設でチラシ・優待券の配備などのPRにより観光客の立ち寄り率向上を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		埋蔵文化財保護事務			
目的	誰(何)を対象として	県民及び開発事業者	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	開発に際し貴重な文化財が破壊あるいは消失しないよう、計画段階で必要な協議を行い、適切な対応が取られるようにする		2,463	2,557
			うち一般財源 (千円)	2,463	2,557
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財の保護に必要な措置を図るため、土地の開発に際して文化財保護法に基づく審査 埋蔵文化財発掘調査を実施する市町村に対し、必要に応じた技術的支援・指導の実施 遺跡の内容に応じた保存方法等、取扱に関する協議 遺跡台帳・リスト・GIS情報の最新化及び周知 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	遺跡台帳の情報整理と最新情報への更新を市町村と相互確認する				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	計画段階で協議を経ず着工する開発事業の件数【当該年度4月～3月】	目標値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度値
		実績値	1.0	1.0	3.0					
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2	県内における周知の埋蔵文化財包蔵地の数【当該年度3月時点】	目標値		11,500.0	11,510.0	11,520.0	11,530.0	11,540.0	件	累計値
		実績値	11,491.0	11,509.0	11,518.0					
		達成率	—	100.1	100.1	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・KPI「計画段階で協議を経ず着工する開発事業の件数」とは、周知の埋蔵文化財包蔵地において開発行為を行う場合、法令等の規定に基づき事前の届出が必要とされているが、これを行わずに着手したものの件数。								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> これまでに把握された遺跡の名称及び数を記載した一覧表を、遺跡台帳に基づいて最新の情報に更新した 事前協議が確実に行われるよう「埋蔵文化財の保護に関する手続きの流れ」を一部修正した。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> GIS上で遺跡情報の更新がされていない場所がある 遺跡台帳上で、過去に把握された遺跡情報とその後の遺跡情報が整理・更新されていないものがあるため、開発区域内の遺跡の保護等に関する取扱協議に支障をきたす恐れがある 事業者が必要な手続きについて理解していない場合がある
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 上記①(課題)が発生している原因 市町村と県、それぞれで遺跡台帳の管理や情報更新が十分ではない 必要な手続きについての周知が十分ではない
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 市町村と県で情報共有・最新情報への修正を行い、できる限り早くGISに反映させることで、遺跡の取扱に関する協議が適切かつすみやかに行える環境を整える 引き続き、市町村と連携し、その協力を得たうえで、開発事業者に対して埋蔵文化財に関する手続きの周知徹底を図り、無届け工事発生防止に努める

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		文化財活用事業			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	子供から高齢者まで幅広い世代に島根の歴史文化を学習する機会を積極的に提供し、ふるさとを誇りに思う心を醸成することで、県民の心の豊かさの向上に寄与する。		3,379	3,623
			うち一般財源 (千円)	1,922	2,413
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 『心に残る文化財子ども塾』: 県内の小中学校及び特別支援学校を対象とした古代体験活動や遺跡見学等の出前事業 文化財講座『いこしえ倶楽部』: 親子等を対象とした体験活動及び一般の方を対象とした座学講座 埋蔵文化財調査センター講演会: 一般の方を対象に、発掘調査の成果等を情報発信する講演会 発掘調査現地説明会: 発掘調査現場を一般公開する現地説明会 風土記の丘レンタサイクル等: 風土記の丘展示学習館とガイダンス山代の郷での無料レンタサイクル及び多言語音声ガイド 県内の史跡等の指定文化財についてドローンによる撮影を行い、文化財の情報発信用のコンテンツとする。 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の参加者増加を目的とし、関係市町村との共催事業で実施し、効果的な広報を実施する。 『心に残る文化財子ども塾』など、イベントの募集期間を長くし、応募しやすい状況とする。 SNSやHP等、多様な情報媒体を活用し、若者・子育て世代へに向けた活動事業の周知・公開を積極的に実施する。 				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	子ども塾、いこしえ倶楽部、まちあるきイベント等の行事開催件数【当該年度4月～3月】	目標値		45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	件	単年度値
		実績値	42.0	30.0	42.0					
		達成率	—	66.7	93.4	—	—			
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—			
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・「心に残る文化財子ども塾」の実施状況: (平成30年度)応募30校、計画28校、実施28校 (令和元年度)応募28校、計画25校、実施25校 (令和2年度)応募25校、計画25校、実施22校(コロナで3校辞退) (令和3年度)応募30校、計画28校、実施28校								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 文化財を幅広い世代に触れてもらうよう、講演会や講座のみでなく、街歩きイベントやガイドブック、パンフレット、レンタサイクル等、多様な事業展開を行っている。 ガイドブックやパンフレットについては、文化財への関心を高めるため、最新の調査成果を踏まえた作成や更新を行った。 イベント実施については、投げ込み等での周知を行うほか、新聞で関連記事の掲載を行う等、積極的な周知を行った。 いこしえ倶楽部などの講座については、YouTube等のコンテンツを利用し、積極的な情報発信を行った。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 一般対象の座学講座については、参加者が固定しつつある状況であり、若者や子育て世代の参加の増加が伸びていない。 まちあるきイベントなどが中止となり、文化財と関わりをもつ機会が減少している。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 上記①(課題)が発生している原因 若者や子育て世代向けのイベントが活用出来るような、デジタルコンテンツの整備が十分でない。 感染症対策の観点から、まちあるきなど大人数でのイベント実施を計画しにくい状況となっている。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代向けのイベント(夏開催のいこしえ倶楽部等)の企画を充実させ、参加者増加につなげる。 まちあるきイベントなどの開催方法の検討を行い、開催可能な内容について精査する。 ガイドブックやパンフレットのデジタル化(QR化等)を行い、デジタルコンテンツを活用を促進する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		埋蔵文化財調査センター事業			
目的	誰(何)を対象として	県民・公共事業者	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	開発事業地内の埋蔵文化財調査を行いその価値を明らかにし、調査で得た情報を県民に還元すると同時に、開発事業と文化財保護との調整を円滑に行い、適正な公共事業の促進を図る。		408,895	525,032
令和4年度の取組内容	・遺跡の価値を明らかにし、保存や活用を図るため、国土交通省や県(土木部)等が行う公共事業予定地の埋蔵文化財踏査を実施する。 ・埋蔵文化財関係資料の有効活用のため、埋蔵文化財調査センターの施設・設備の維持管理を行い、収蔵する遺物や図書等の関係資料を良好な状態に保つ。 ・発掘調査の成果や文化財関連事業に対する理解を深めてもらうため、県民に対し広報・公開を行う。				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・文化財踏査実施の際には関係市町村と協力して実施し、確認された埋蔵文化財の共有化をはかる。 ・国土交通省及び県土木部などの関係機関の協力得て適宜連絡調整を実施し、効果的・効率的な調査が可能となる体制の整備をはかる。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	発掘調査が円滑に行われなかった件数【当該年度4月～3月】	目標値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度値
		実績値	0.0	0.0	0.0					
		達成率	—	—	—	—	—			
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—			
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		KPI「発掘調査が円滑に行われなかった件数」とは、年度内の事業完了が出来ず、事業期間の延長などがされた場合の件数 ・令和4年度試掘確認調査予定(大橋川改修2カ所、江の川改修10カ所、益田西道路11カ所) ・令和4年度分布調査予定(松江北道路、益田西道路)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・先行して実施する分布調査や試掘確認調査の実施により、見込まれる調査量を事前に把握し、円滑な調査が行われている。 ・発掘調査の成果については、現地公開やパンフレットの作成・配布を行い、広く発信に努めている。 ※ 現地公開: 発掘調査実施の松江、江津、安来の3市(4遺跡)で実施。約150名参加。 ※ パンフレット「しまねの遺跡 発掘調査パンフレット11 史跡出雲国府跡」、3000部作成、大庭公民館ほか松江市内公民館などへ配布 ※ パンフレット「ドキ土器まいぶんNo.68 -特集 三瓶山周辺地域の原始・古代-」、8200部作成、飯南町内各公民館などへ配布
課題分析	① 課題	・開発事業の増加や突発的に発生する発掘調査に、迅速に対応することが困難となる可能性が生じている。
	② 原因	・上記①(課題)が発生している原因 ・河川改修や山陰自動車道の建設といった大規模な開発事業について、設計の変更等により突発的な発掘調査を要請されることがある。
	③ 方向性	・国土交通省や島根県土木部などの関係機関との連絡調整を引き続き行い、情報交換を行うことで、発掘調査の円滑な実施が可能となるよう努める。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古代文化の郷「出雲」整備事業				
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額	
	どういう状態を目指すのか	八雲立つ風土記の丘地内の史跡等の魅力向上を図るとともに、出雲部に存在する多様な文化遺産をネットワーク化し、歴史探訪ルートを設定して、野外博物館として活用してもらう		13,179	22,964	
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡音声ガイド端末や電動アシスト自転車の利用に際して、より魅力ある周遊のために、周遊ルートマップを作成して利用を図る。 ・中心的な史跡の一つである山代二子塚については、その理解が深まるよう、ガイダンス施設の機器更新等を行う。 ・八雲立つ風土記の丘を代表する史跡である出雲国府跡については、今後の整備活用を図るために発掘調査を実施する。(令和4年～6年度の3カ年計画) 					
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関が実施する各事業の情報共有・調整を行う ・風土記の丘地内及び周辺文化財について、新たな知見に基づいた映像等を用いて紹介することで、風土記の丘展示学習館(山代の郷ガイダンス)のゲートウェイとしての環境を整える。 					
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	文化財活用度(出雲地域の代表的な史跡等(松江城など8か所)の来訪者数)【当該年度4月～3月】	目標値		638,000.0	319,000.0	479,000.0	638,000.0	638,000.0	人	単年度値
		実績値	637,755.0	367,363.0	351,576.0					
		達成率	—	57.6	110.3	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・山代二子塚については、令和3年度に園路整備及び説明板の設置を実施 ・出雲国府跡については、透過型説明板を設置した 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲部の各市町において、調査による価値の顕在化や史跡整備が進められ、野外博物館として活用してもらう上での基盤が整えられつつある ・県や松江市等の関係機関で、文化遺産のネットワーク・ルート設定の再検討が進められつつある
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ整備が進んでいない史跡等が存在する ・県内外からの来訪者が風土記の丘地内及び周辺の遺跡を周遊してもらうための環境整備が十分ではない
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・対象となる史跡等の数が多い ・広範囲に分布する史跡等を効率的にまわることが出来るようなルート設定、情報発信が十分ではない ・来訪者の理解度や満足度に関する情報収集及び分析が十分ではない
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡等の整備を計画的に行っていく ・県内外からの来訪者が風土記の丘地内及び周辺の遺跡を周遊してもらうための環境整備を加速するため、県と松江市や出雲市などとの検討を進める ・アンケート調査の分析を基にした周遊マップを作成し、音声ガイドや電動アシスト自転車を利用する来訪者の増加を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		未来に引き継ぐ石見銀山保全事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、適切に保存整備し未来に継承しつつ、その価値や魅力について情報を発信し認知度の向上を図る。		64,728	83,364
			うち一般財源 (千円)	64,028	82,364
令和4年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ研究では、港町「温泉津」に焦点をあて、石見銀山が16世紀の世界経済に影響を与え、国内外との交流が盛んであったことが明らかになったことについて、今年度は登録15周年記念事業として、「世界遺産センター」だけでなく、大田市と連携して「石見銀山資料館」「温泉津観光案内所(ゆう・ゆう館)」の3館において事業として企画展を同時開催する。 ・企画展の内容にあわせ、港町「温泉津」を取り上げた講演会を県外の方向けに開催することとし、紙媒体以外にSNS等のインターネット媒体を活用して周知を図る。 ・次年度から始めるテーマ研究については、登録20周年・発見500年に向けて一般の方の関心を高めることを意識したものとし、上半期にはテーマを確定する。 ・石見銀山遺跡の全容究明及び価値を高める基礎調査研究(考古学・歴史民俗学・自然科学)を実施し、成果について調査報告書を刊行するとともに、HPに掲載する。 ・大田市や地元関係機関等と連携し、史跡等の保存整備や落石対策措置等の支援を継続して行う。 				
令和3年度に行った 評価を踏まえて 見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・県外の方向けの講座開催や、大田市及び関連団体等が行う石見銀山遺跡の普及啓発事業についてSNSやメディアの活用等により、新規の来客層を開拓する。 ・専門的な研究成果を一般や子供たちにわかりやすく伝えるよう、展示や座学に加えて体験を取り入れるなど工夫する。 				
1	上位の施策	Ⅵ-4-1(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-1(2) 世界に誇る地域資源の活用	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	石見銀山遺跡に関する調査研究・保存整備の成果が公開された回数【当該年度4月～3月】	目標値		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	回	単年度 値
		実績値	8.0	8.0	8.0					
		達成率	—	80.0	80.0	—	—	—		
2	講座等での参加者アンケートにおいて石見銀山遺跡への興味・関心が高まったと感じた人の割合【当該年度4月～3月】	目標値		95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	%	単年度 値
		実績値	91.2	97.0	94.6					
		達成率	—	102.2	99.6	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産石見銀山遺跡の首都圏での認知度(しまねの観光認知度調査)は、H30年度32.9%、R元年度33.9%、R2年度34.6%、R3年度35.0%と推移 ・石見銀山の入込客延べ数は、H30年246,300人、R元年265,300人、R2年171,000人、R3年度165,400人と推移 ・県外講座(オンライン配信申込者数1066人)、県内講座(対面聴講者234人)、世界遺産センター企画展(10/27～1/24 観覧者数6,979人) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産センターでの企画展の観覧者のうち、石見銀山遺跡への興味関心が高まった、やや高まったとした割合は95%で認知度が向上している。 ・県外講座のオンライン配信により、遠隔地を含めて参加者数が増加し、より多くの人々に情報が届いている。 ・大田市が実施する史跡等の保存整備、落石防止等の安全対策、伝建地区の修理は着実に進んでいる。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の調査研究は、登録時のICOMOSの指摘に対応するため、専門性の高い学術的な視点から進め、研究成果を報告書として刊行して実績を重ねてきた。その一方で、世界遺産センター入館者など一般の方々への情報発信手法・内容を分かりやすくする取組はさらなる工夫が必要である。 ・講座のオンライン配信による受講者の拡大は試行中であり、さらなる改善の余地がある。 ・講座情報の周知や、これまで受講経験のない方への働きかけが不足しており、石見銀山ファンの新規開拓が課題である
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの研究テーマの設定や発信は、ICOMOSから提示された課題解決に比較的焦点を置いていた。そのため情報発信内容は研究者あるいは関心の高いコア層向けのもが多く、一般の方にわかりやすく発信する機会や発信手法は限定的であった。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・R元年度に調査研究の見直しを行い、ICOMOSからの課題も踏まえつつ、一般の方にわかりやすく伝わりやすいテーマを設定した調査研究を開始する。R5年度から始めるテーマ研究では、登録20周年・発見500年での情報発信を見据え、一般の方々に分かりやすく石見銀山遺跡の実態を伝えるテーマを検討し、着実に調査研究を実施する。 ・世界遺産センターにおいて、テーマ研究及び基礎調査研究の成果をわかりやすく展示公開する企画展を毎年、定期的で開催する。 ・講座の周知は、SNSのほか様々な媒体を活用するとともに、内容は、新たな受講者の開拓や石見銀山への来訪につながる企画を進める。 ・大田市や地元関係機関並びに他部局との連携を進め、史跡等の保存整備の支援を継続していく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古代文化研究事業				
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額	
	どういう状態を目指すのか	しまねの特色ある歴史文化について、新たな視点から調査研究を行い、学術的基盤を構築する。研究成果を広く公開して、歴史・文化の魅力を上昇させることを通じ人々の交流を促す。		34,327	45,367	
令和4年度の取組内容	(1)企画運営委員会（古代文化センターの調査研究事業の方向性を審議する有識者会議） (2)古代文化基礎研究事業 特色ある島根の歴史文化に関する基礎研究。①考古基礎資料調査研究 ②風土記調査研究 ③中世・近世史料の多角的研究 ④祭礼行事調査研究 (3)古代文化研究事業(テーマ研究) 基礎研究をもとに、外部研究員を交え3年間の研究、4年目に歴博で企画展を実施 (4)調査研究成果の情報発信事業 ①『古代文化研究』②『しまねの古代文化』③テーマ研究報告書などの刊行、および『古代文化研究』の電子公開					
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・実施中の研究事業についても、その成果を一般向け講座・ホームページなどを活用して随時公開し、幅広い人々にわかりやすく伝えることで、歴史文化に対する興味・関心を高める。					
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	古代文化研究事業の成果として「古代文化研究」に掲載された論文数【当該年度4月～3月】	目標値		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	件	単年度値
		実績値	10.0	10.0	13.0					
		達成率	—	100.0	130.0	—	—			
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—			
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・昨年度は、研究報告として『古代文化研究』のほかに、『荒神谷遺跡青銅器群の研究』・『出雲国風土記一地図・写本編一』・『山陰における古代交通の研究』・『中世石見における在地領主の動向』の4冊を刊行した。								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・島根の特色ある歴史文化についての学術的基盤を構築するため、基礎研究(4分野)、及びテーマ研究(6本)について、着実に調査研究を進めている。研究成果は、紀要「古代文化研究」や報告書にまとめて刊行している。 ・研究成果を多くの研究者・歴史愛好家と共有し活用を図るため、『古代文化研究』のWEB公開をしている(R元年度・28号～) ・研究成果を一般の方に幅広くわかりやすく伝えるため、昨年度末に開設したWEBポータルサイトに研究員のブログ、コラム、調査研究状況の動画などを掲載し、情報発信している。その1月当たりのアクセス数は、前年度比4.6倍に伸びている。
課題分析	① 課題	・『古代文化研究』は27号までは、WEB公開できていないため、図書館等で閲覧するしかなく、アクセス機会が限られている。 ・ポータルサイトで効果的な情報発信を行うためには、継続的に魅力あるコンテンツを掲載し更新していく必要がある。
	② 原因	・『古代文化研究』27号までは、紙ベースの報告書として刊行しており、電子データ化されていない。また、WEB公開について改めて執筆者の意向を確認し、引用画像の著作権者の許諾を得る必要がある。 ・調査研究を進めていく中で、新たな資料が発見されたり、事実が確認されたりしても、それらがタイムリーに発信されておらず、情報発信を意識して研究を進める必要がある。
	③ 方向性	・『古代文化研究』27号までのバックナンバーの電子データ化や許諾をとることは、膨大な事務量となるため、毎年度2冊ずつ、計画的に電子化を進めWEB公開を行う。 ・テーマ研究・基礎研究により明らかになった成果は、研究途中であっても、速報や中間報告のような形で、随時ポータルサイトで発信するなどして、コンテンツを充実させ、歴史文化ファンの興味が続くよう情報発信の機会を増やしていく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		島根の歴史文化活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	しまねの豊かな歴史文化の魅力を広く伝え、県民の郷土への自信を培う。県外の方々には、しまねの歴史文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。		うち一般財源 (千円)	21,968
令和4年度の取組内容	(1) 県民参加型事業(講座) ①島根の歴史文化講座+オンライン ②隠岐国巡回講座 ③石見国巡回講座 (2) 県外における情報発信 ①古代出雲文化シンポジウム ②日本遺産の魅力発信オンラインツアー (3) 他県との連携事業 ①古代歴史文化賞 ②古代歴史文化に関する共同調査研究(14県事業):大阪歴史博物館での企画展開催				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・主催する講座を会場とオンライン併用のハイブリッド方式で行うことで、より幅広い人々に発信する。 ・県内外の人々に歴史文化への関心を高めるため、昨年度新規に開設したポータルサイトに多様で魅力あるコンテンツを制作、掲載し、継続的に発信する。				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	Ⅰ-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根の歴史・文化に関する講座・シンポジウム等参加人数【当該年度4月～3月】	目標値		5,000.0	6,000.0	6,000.0	6,000.0	6,000.0	人	単年度値
		実績値	4,967.0	5,800.0	6,643.0					
		達成率	—	116.0	110.8	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		講座・シンポジウム参加者数内訳 R2 総数5,800名 うち会場1,181名(20%)、オンライン4,619名(80%) R3 総数6,643名 うち会場1,170名(18%)、オンライン5,473名(82%)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・新型コロナウイルス感染症の影響が長期間継続していることから、前年度に引き続きオンライン配信や会場とオンライン併用で講座を実施した。オンライン配信で開催した古代出雲文化シンポジウムについては、講演、研究報告やパネルディスカッションなど各コーナーを約15分間にまとめ、8本立て構成にしたことで、分かりやすく多くの視聴者に興味を持ってもらえ、視聴人数の増加につながった。 ・全ての講座を会場とオンライン併用にしたことで、講座参加へのハードルが下がり、より幅広い層の方々に参加、視聴して頂けるようになった。
課題分析	① 課題	・島根の歴史文化講座のオンライン配信受講者は、関東圏45%、中国地方43%(うち島根県30%)でほぼ9割を占める。古代出雲文化シンポジウムはアンケート回答者の傾向であるが関東圏が46%に及ぶ点は変わらない。 ・オンライン配信受講者の年齢層は、60・70代が60%を占め、50代は15%、40代は10%、それ以下は5%に満たない。会場での受講者数に比較すれば、オンライン受講者数は50代以下でも増えており、成果は上がりつつあるが、多いとはいえない。
	② 原因	・オンライン配信受講者が関東圏で多いのは、首都圏の新聞に広告を出していることが大きい。関西圏などその他の地域には十分な広報ができていない。 ・40代以下の若い層が歴史文化へ興味をもつような取り組みが、まだ十分でない。
	③ 方向性	・知事部局(観光振興課など)や島根県観光連盟、古代歴史文化協議会などと連携し、首都圏そして、それ以外の地域に対してシンポジウムなどの情報が広くいわたるようにする。 ・新ポータルサイトを活用して、歴史に詳しくない方でも楽しんでいただけるような話題など、様々な情報を発信することで、40代以下の方の歴史文化に対する興味関心を喚起する。